



猿江公園初の快挙！！ カワセミの営巣

3月末、猿江公園南部で鳥の巣箱を設置させていただいた帰り（巣箱についてはゼンが執筆中らしい）、下池をちらっと覗いてみると、**カワセミ**がいた。なんだか忙しく飛び回っている。いつにも増して元気だなあ。そう思っていると、何か違和感に気づく。よく見てみると、ん？？ **カワセミが土壁を突いてる？！？！** こ、これは！！**営巣(えいそう)ではないか！！！！** これは、**猿江公園では“初”の出来事である**。生で見るのは初めてだったので、思わず鳥肌が立った。一緒にいたタツキ先輩（卒業したはずなのになんているんだ…）も、流石に驚いた様子だ。「ちょっと見たらすぐ帰ります！」そう顧問の先生に伝えていたにも拘らず、観察しながら「カワセミもう来たんですねえ」などと二人でしばらく（30分～1時間くらい？）話していた。先生すみません…。

さて、タツキ先輩との会話で、「もう来た」という表現をしたのにはちゃんと意味がある。以前のいきもの記（Vol.64,65,72）で何度か書かれていたとおり、猿江恩賜公園の南部では、2022年8月～2023年5月まで“**生物多様性保全整備工事**”というものが行われていた。物凄く簡単にいうと、猿江公園の環境を改善して、より多くの生き物が過ごせる環境にしよう！というものである。工事の具体的な内容については過去のいきもの記を読んでもいただきたいのだが、実はそれらには書かれていなかったことが一つある。工事の際、下池の一角に土を盛り、**カワセミが営巣できるように土壁を作っていたのだ！**（しかも、カワセミが好む**赤土**を使ってくれたようだ！）筆者は昨年の生物の授業で見学させて頂いたのだが、正直にいうと、これを知った時は「すぐには来ないだろうなあ。人との距離が近いし、なんなら1回も来ないんじゃないの？」なんて思っていた。その結果がこれである。だから、営巣に気づいた時は驚きを隠せず、二度見、いや、三度見してしまった…。

ところで、カワセミの**嘴(くちばし)**ってなんであんなに長いんだろう…？ そう思ったことのある人はいるだろうか。実は筆者も前から疑問に思っていた。「水中ダイブをする時に空気抵抗を減らしたいのか？」とか、「細長い嘴の方が魚を獲りやすいのか？」とか考えてはいたが、そういえばちゃんと調べたことはなかった。ということで、これを機に色々調べてみたのだが、どうやらあの細長くて尖った嘴は、**巣作りの方法**に関係しているようだ（筆者が考えていたように、狩りをする時に水や空気の抵抗を減らす役割もあるようだ）。カワセミは**垂直な土壁**（垂直といえど、壁の上側が下側よりも突き出ている場所を好みやすい。巣穴に雨が入りにくいためである。）に**横穴**を掘って、その穴の中で子育てをする。あんな小さい鳥が穴掘れるの？！と思うが、それを可能にしているのが“**あの嘴**”である。掘り始める時は、近くの枝から土壁に向かって飛び込み、**尖った嘴を思いっきりぶつけて凹ませる**。それを繰り返すことで穴を開けることができるのだ。しかも、それを**約50～100cmも掘り進める**が、それはもう重労働である。実は穴を掘る際には、“**足**”も重要な役割を担っている。カワセミの足は他の鳥にはない変わった形をしていて、なんと**前方の指同士がくっついて**いるのだ（“**合趾足(ごうしそく)**”という）。嘴で削った土をその足でシャベルのように掬い、穴の外へと掻き出すのだ。なんとも面白い使い方である。ちなみに猿江公園の場合は、**土壁を作った際に、同時に10cm程度の窪みをいくつか作っていた**ようだ。これにより、カワセミの営巣を誘引していたのだとか（頭いいなあ）。

カワセミは、**東京都区部で絶滅危惧II類(VU)に指定されている**が、近年都市部で個体数を増やしている鳥の一つだ。そんなカワセミがせっかく本校の近くで繁殖し始めたのだから、これは我々生物班が観察するしかない！ということで、下池にカワセミ観察用のカメラを設置しようという話が進んでいる。カワセミが**巣穴から出る時の体の向きによっても雛の成長具合が分かる**そうなので（雛が大きくなると巣穴の奥が狭くなり、親鳥が体の向きを変えられなくなるため）、カメラでの観察は是非ともやりたいところである。だが、タツキ先輩の話によると、下池には**特大サイズのアオダイショウ**がいるらしい。ヘビは体が細く巣穴に入れてしまうため、カワセミにとっては**最大の天敵**である。もし襲われたらなす術がないだろう。大丈夫だろうか…。心配ではあるが、我々には見守ることしかできないので、ただひたすら襲われないことを願うばかりである。

カワセミについて調べてみると意外と知らないことが多くて、図鑑を見ながら「え！そんな習性あるの？！」と感心していた。筆者のことを「鳥博士」なんて言ってくれる人が何人かいるが（いつも励みになっています。ありがとうございます。）、まだまだ勉強が足りないし気付かされた（これ定期的に言ってるかもしれない）。生き物の不思議な習性は、その理由を**自分で考えてみると**、世界が広がっていく気がして凄く面白いが、それと同じくらい**調べてみることも面白い**のだと改めて感じた。やっぱり“**知る**”って楽しいなあ。（文・写真：佐藤 暖哲）

参考文献：鈴木まもる、2023、身近な鳥のすごい巣、株式会社イースト・プレス



カワセミ *Alcedo atthis*
(ブッポウソウ目カワセミ科カワセミ属)
左がメスで、右がオス。下嘴(かし)の色が赤いかどうかで見分けられる。「チー」という金属的な声で鳴く。止まっている時は、尾羽をピコッと上げることがあるが（これがちょーかわいい）、なぜあのような動きをするのだろうか…？
(左：2024.4.8、右：2024.4.26)



左：カワセミの巣穴（白枠）。土壁にぽっかりと穴が空いているのが分かる。穴を掘る時は、右の止まり木（写真ではメスが止まっている）と巣穴を行き来していた。（2024.3.30）

右：巣穴を掘るカワセミ。**造巣期（営巣に掛かる期間）は1週間程度**らしいが、営巣場所の土の硬さによっても変わるのだろうか？ 営巣はオスとメスが交代しながら行う。穴を掘る際に嘴や体に土が付くので、それを洗い流すために**頻繁に水浴びをする**。これらの様子は、**右上のQRコードを読み込むと動画で見ることができるのでオススメです**。（2024.3.31）

【カワセミの交尾？の様子】（2024.4.26）

この時初めて知ったのだが、**メスが交尾を拒否**することは結構あるらしい。



①オスが交尾しようとメスに乗る。

②メスが嘴を大きく開けて拒否。オスが飛び去る。